

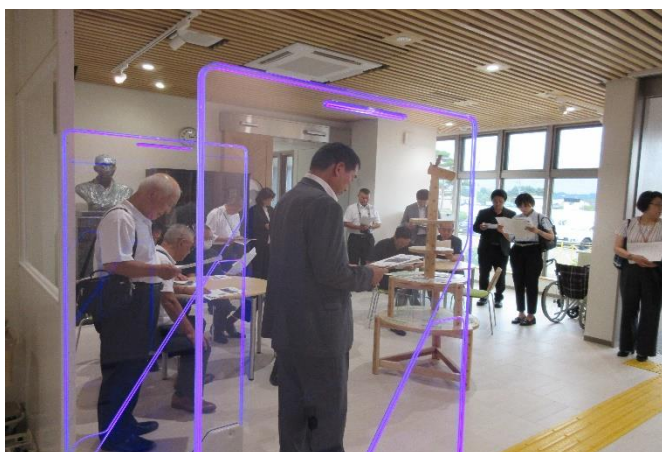
## 常任委員会合同派遣調査報告

令和7年8月29日、3常任委員会合同で十和田図書館の視察を行いました。

新たに整備された十和田図書館は、隣接する十和田市民センターと渡り廊下で接続されており、2つの施設を一体として利用することを想定されています。また、エントランスにある立山氏の銅像は旧十和田図書館より移設したものです。

図書館内には身体障がい者対応トイレのほか、男女トイレ内に幼児用トイレを1つずつ設置することで、市民が安心して利用できるトイレ環境が整備されています。

施設のポイントカラーとして、毛馬内盆踊りの「しごき」をイメージした黄色や「豆絞り」をイメージした水玉模様を配置し、地域住民にも親しみやすいデザインが施されていました。



・図書館入口エントランスにて、教育委員会職員から説明を受け、十和田図書館の施設概要や基本方針、施設としての特色を説明を通して知ることができました。



・児童図書コーナー「ほんのうち」では、子供に読み聞かせをすることができます。隠れ家のような空間でこどもたちも利用しやすい部屋になっていました。

2階には、旧図書館の保管庫から発見された貴重な資料を展示されています。2階の立山文庫、諏訪文庫、みどりの文庫には、旧十和田図書館の倉庫に保管されていた貴重な資料を展示しています。長年放置され、人の手に触れていなかったことから、保存状態が非常に良く、この機会に展示室を設けて広く市民に公開することとしたそうです。



立山文庫コーナーには、立山氏が収集した図書の一部が展示されています。立山氏は、特定のジャンルに偏ることなく、幅広い分野の図書を揃えて市民に貸し出ししており、予算規模としては当時の県立図書館並みの金額を投じており、その図書を閲覧することができます。

・みどりの文庫コーナーには、先のNHK朝ドラで有名になった植物学者の牧野氏と交流のある米田博氏が収集した植物標本や、こけし作家としても有名な俳人浅井小魚氏の作品や資料が展示されています。



新たな十和田図書館は、隣接する十和田市民センターとを一体として利用することを想定しているという点が特徴的でした。また、単に利便性が向上されただけではなく、これまで公開していなかった立山文庫、みどりの文庫などの貴重な資料を展示することで、十和田地域が輩出した文化人を通して、市民が地域に愛着を持ち、学問に関心を持つきっかけとなることを期待します。